



梅雨に入ってから晴天が続いていましたが、ここのところ晴れと雨との繰り返しの日々が続き、今日から約1週間は雨の予報です。晴れた日には散歩に行き、おたまじゃくし・バッタ・カニなどを捕ってきてはそれぞれのクラスの仲間となり、楽しんでお世話をしているようです。雨の日も室内では『ドッジボール』『しっぽとりのおにごっこ』『フルーツバスケット』やマットやトンネルを使った元気に動く遊びや製作遊びやお絵描きなどの静かに取り組む遊びなどを楽しんでいます。

しかし、子どもたちが楽しみにしているプールは、いつから入られるでしょうか。お楽しみはもう少し後になりそうです。お楽しみに!



【七夕まつり】短冊と笹飾り作りの協力をいただきありがとうございます。今年は、親子で笹飾りをしてもらうことになりました。3日(金)の夕方または6日(月)の夕方に玄関に笹を準備しておきますので、各クラスごとに飾ってください。よろしくをお願いします。

【夏祭り】今年はコロナの影響で様々な行事が中止になっています。夏祭りは8月に計画していますが、保育園内で子どものみで行います。たいようぐみは太鼓の演奏を楽しく頑張っていますので、年長の保護者さんには、是非聴いていただきたいと思います。太鼓披露は、8月7日(金)16:00~の予定です。

【お盆希望保育】13日(木)~15日(土)は希望保育です。後日希望調査のおたよりを配付します。

親子の みち
絆を深め合う道程 広木克行※著

親子は その「絆」ゆえに苦しみが深く、
「絆」ゆえに喜びもまた とても大きいものになるのです。

医学がまだ今日ほど発展していなかった時代には、人々は子どもの誕生を今よりずっと謙虚にとらえていて、「授かる」という言葉を使っていました。

しかし、今日、人々は子どもを「作る」という言葉を口にしています。その言葉の奥には自分に意志で作ったのだから、子どもは自分の思うように育ててよいという、子どもに対する傲慢な考えが、潜んでいるのではないのでしょうか。

～「人の教育」フレーベルより～

子どもが何か疑問を持ちかけるとき、またしつこく物を問いかけるときでも、決してうるさいというようなふうを見せてはならない。荒々しい言葉で拒否したり撥ねつけたりすると、子どものうちに出初めた生命の木の芽をそこなってしまうであろう。しかしまた、子どもに答えてやる場合には、あなた方の言葉がなくとも、子どもが自分で答えを見出しうるような程度にしてやって、それ以上にあまり多くの言葉で説明しない方がよい。もちろん子どもにとっては、他人から答えを聞く方が、自分でそれを見出すよりも容易には違いない。ただ、人から答えを聞く場合には、半分聞いて半分解するくらいの程度である。しかしながら、他人から半分聞いて半分解することよりもたとえ四分の一でも、自分で解答を見出すことの方が遥かにやさしく、重要である。(中略)「早くから子どもに考えることを教えるのが、児童教育の第一最高の意義である(後略)」

子どもの言葉に答えるのって本当に難しいですよ。でも一緒に考えたり、ちょっとしたヒントがきっかけで子ども自身が自ら考えるようになるといいなと思います。大人も、何歳になっても子どもたちとわくわくした感情を分かち合い言葉のキャッチボールを楽しみたいものです。

《悲しみ苦しみは人生の花だ》

仏教には「大慈大悲」という言葉があります。大きな悲しみが大きな優しさを生むという意味です。優しさを磨くのは悲しみなんですね。雨なくしては虹は生まれません。たくさん泣けばいいのです。たくさん泣いた涙が将来の恵みの雨となるのです。

《他人に喜ばれること》

マザーテレサは、お金の使い方を通して愛することについて、次のように教えてくれています。「愛するとは200円持っていたら100円を貧しく苦しんでいる人に与えること」「あとの100円はどうするの?」「残りの100円で花を買って机の上に置いて楽しみなさい。」お金は心がきれいになることに使うこと。そのためには、人生の50%は誰かを助けることに使い残りの50%は自分自身の心を豊かにすることに使う。自分と他人の両方を満たしてこそ自分の心がきれいになる。子育てもそうですよね。(園長 田中※筆)